



脚本_見えざる敵

karasuno10

雨

見えざる敵

烏野
博史

人物

須藤渉 (27) プログラマ

すとうわたる

桜井千晴 (28) そのネット友達

さくらいちはる

坂峰卓朗 (40) 強盗

さかみねたくろう

川添良輔 (36) 坂峰の仲間

かわぞえりようすけ

山村隆盛 (35) 須藤の上司

やまむらたかもり

女性店員 (18)

若い男

若い女

サラリーマン

中年男性

■ 須藤 渉



① 須藤家・須藤の部屋（夜）

机の上に、置時計がある。須藤渉すとうわたる（27）

が机でPCディスプレイを見ている。

ディスプレイにはメール画面、“オフ

会しましょう sakura”の表示。

須藤、ディスプレイにチャット画面を
表示させ、書き込む。

須藤の声「相談がある」

チャット画面、“何？”。

須藤の声「ネット友達にオフ会に誘われた」

チャット画面、“健闘を祈る”。

須藤の声「耳が聞こえない事をふせてようと
思う」

机の上の置き時計。

チャット画面、“難しいだろうな”。

② 森内建築事務所・応接室

須藤と山村隆盛やまむらたかもり（35）が中年男性と向

き合うようにソファに座っている。

山村と中年男性、熱心に話している。

山村と中年男性の口が動くのを瞬きせず凝視する須藤。

中年男性が部屋から出て行く。

須藤「山村さん。今の話、途中でわからなくなっただのですが、どんな——」

山村「（即座に）たいした話じゃないよ」

山村、眉を顰め、溜息をつく。

須藤の声「難しい。それでも……」

須藤、中年男性のいた場所を見る。

③須藤家・須藤の部屋（夜）

PCディスプレイが光っている。

須藤の声「僕が耳が聞えない事を知らない友達

達がいたら……と思う」

メール画面、"送信済。土曜日ですね。

了解です。目印に青いコートを着てい

きます。お会いできるのを楽しみにし

ています wat。

④ショッピングモール・広場

曇り空。青いコートを着た須藤が花壇に座っている。花壇の横には階段がある。須藤の側、サラリーマンが携帯で話している。

須藤の前方、若い男と若い女が横切る。

須藤、若い男と若い女を見る。

若い女の口が動く。

須藤の声「服屋によりたいなあ」

須藤、笑顔のサラリーマンを見る。

サラリーマンの口が動く。

須藤の声「ありがとうございます——わが社にお任せ下さい！　しかしですねえ——」

サラリーマン、口を手で覆い隠す。

須藤、眉間に皺を寄せ、辺りを見回す。
さかみねたくろう

坂峰卓朗（40）と川添良輔（36）、須
かわぞえりようすけ

藤の脇の階段から降りてくる。

須藤、坂峰と川添を見る。

川添の口が動く。

須藤の声「よしときましようよ」

坂峰の口が動く。

須藤の声「馬鹿野郎！ 軍資金もうないだろ。
大丈夫。良い店がある。カフェだ」

須藤は腕時計を見る。

須藤「(つぶやき) 予行演習、終了」

須藤は立ち上がる。

ごろごろと鳴るくもり空。

⑤ カフェ・外観

テラスのあるガラス張りのカフェ。屋
根つきのテラスがある。

雨が降り始める。

⑥ 同・テラス

雨。屋根のあるテラス。須藤が店のド
アの方角を向いて座っている。

店からテラスに出てくる桜井千晴(28)。

千晴、須藤のコートに気付き、近づく。

千晴「wat (ワット) さん？」

須藤「はじめまして、wat です。 sakura (サ
クラ) さん」

千晴、須藤と向き合うように座る。

千晴「はじめまして、sakuraです。思ったとおり男性だった」

須藤、千晴を凝視する。

須藤「sakuraさんは女性だと思っていました」

千晴「でしょうね」

千晴は雨の降る店先を見る。

須藤「雨が好きなんです」

千晴を凝視する須藤。

千晴「ああ、だからわざわざ……」

須藤「雨、お嫌いですか？」

千晴「いいえ。私、雨女だし」

須藤「雨女？」

千晴「そう。学生時代は、遠足も体育祭も音

楽祭も大事な日の天気はみんな雨」

須藤「それは……すみません」

千晴「違う違う。本当に好きなのよ。体育祭

も音楽祭も優勝したんだから」

須藤「優勝……」

千晴「すごいでしょ。注文してくるわ」

千晴、店の中に入っていく。

須藤、溜息をつきテーブルに肘をつく。

須藤「良かった。話す速度は速いけど、口の形のはつきりした人だ……いける！」

須藤、雨の降る店先を見る。

須藤「このまま聞きに徹すれば……」

千晴、コーヒートホットドッグの乗ったトレイを持った千晴がやってくる。

千晴「おまたせ」

店先を見ている須藤。

千晴「……何を見てるんですか？」

須藤「……」

千晴、トレイをテーブルの上に置く。

須藤、足をテーブルにぶつけ、揺らす。

須藤「あれっ、いつ、から、いたんですか」

千晴、大笑い。

千晴「やっぱり現実に会ってみると印象違う。もっと堅い人だと思っていました」

須藤、トレイを見て目を見開く。

トレイの上のホットドッグ。

須藤 「それは……」

須藤、体を強張らせる。

千春 「どうしました？」

千春、座る。

須藤 「ホットドッグ……ですか」

須藤、ひきつった笑顔。

怪訝な顔をする千春。

千春、ホットドッグを食べようとする。

千春、千春を見つめる須藤に気づく。

千春 「食べます？」

須藤 「いえ、結構です」

千春 「じゃあ遠慮なく」

千春、ホットドッグをほお張る。

千春 「そういえば――」

千春は手で口元を隠す。

目を見開く須藤。

無音。千晴が口を隠し話している様子。

無音。雨が降っている様子。

無音。客が話している様子。

千春 「本当に、イメージと違いますね」

須藤、固唾かたずを呑む。

千春「疑うわけじゃないですけどー」

須藤「そ、そういえばですね！好きな映画は何ですか？僕は「スターウォーズ」です！」

千春、ホットドッグをテーブルの上に置き、食べながら口元を手で隠す。

千春「好きな映画……ねえ」

須藤、ピクリともせず千春を見ている。

千春、口元から手を離し咀嚼そしゃくしている。

須藤、背もたれに寄りかかる。

千春、ホットドッグを飲み込む。

千春「映画……あまり見に行かないですね。

でも恋愛モノは割とレンタルで借りたりしています」

須藤「恋愛モノですか……」

千春「……」

須藤「……」

千春、残ったホットドッグを口に入れ、手で口元を隠す。

千春「うん。ここのホットドッグおいしいわ」

須藤「……え？」

千春「ホットドッグ！ 美味！」

見詰め会う須藤と千春。

須藤「……恋愛映画の話ですか？」

千春、ホットドッグを噴出す。ホット

ドッグの破片が須藤のほおにつく。

千春、大笑い。

千春「ごめんなさい！」

須藤「なわけないですよ。すみません。お

手洗い行ってきます」

千春「どうぞどうぞ」

須藤、不自然に笑いながら席を立つ。

千春「……なんか浮かない？」

千春、須藤の後ろ姿を見る。

⑦ 同・トイレ・前

ドアには使用中のマーク。

⑧ 同・トイレ

洗面台で顔を洗う須藤。

須藤、蛇口を閉め、鏡を見る。

須藤「バレた!？」

鏡に映る須藤の顔、険しい。

須藤「……嫌。そんな素振りはないかった」

須藤、頭で鏡にもたれかかる。

須藤「大丈夫……大丈夫！」

須藤、頭で鏡を叩く。

⑨ カフェ

入口側そばに女性店員（18）が立っている。

鞆を持った坂峰と川添、入口から入る。

女性店員「いらつしやいませ」

坂峰、鞆から拳銃を取り出しながら女

性店員に詰め寄る。

⑩ 同・テラス

千晴が雨が強まった店先を見ている。

千晴「なーんーかー、おっかしいなあ？」

千晴、須藤の席を見る。